



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	株式会社内山精工 Ⅱ期工場新築工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.6	/5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点, スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点	3.1	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ④耐久性に優れた内装材の採用。 ④耐久性に優れた設備配管の採用。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑨LED照明など高効率な照明設備を採用してエネルギー消費の削減を図っている。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水機能のある設備機器の採用。 ⑫設備機器におけるグリーン購入法適合品の採用。 ⑬将来の解体時における躯体と仕上げ材の分別の容易を計画。 ⑬発泡系断熱材の使用無し。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰設置されている器具総数の過半以上で、節水型器具を採用している。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳階高を高くし、空間にゆとりを持たせた。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑敷地周囲に視線を遮るような連続した塀を作らず、見通しの良いフェンスを設けて防犯性・防災性に配慮している。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥高温排熱放出部を設置しない。 ■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑮夏季の卓越風向に対する建築物の見付け面積を40%未満とした。 	Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ② ② まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社内山精工 II期工場新築	階数	地上2F
建設地	磐田市勾坂上字西野637, 638, 639	構造	S造
用途地域	地域指定なし、法第22条区域	平均居住人員	50人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,675時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 予定	評価の実施日	2021年5月8日
敷地面積	7,788㎡	作成者	金子弘一
建築面積	1,338㎡	確認日	
延床面積	2,491㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・92㎡)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性: N.A. 耐用性: 2.9 対応性: 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境: 1.0 まちなみ: 3.0 地域性: 2.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

建物外皮の: N.A. 自然エネ: 3.0 設備システ: 2.1 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源: 3.4 非再生材料の: 3.5 汚染物質: 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化: 3.0 地域環境: 3.5 周辺環境: 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工性や維持管理を意識し、快適な室内環境とコストバランスを両立する計画とする。 快適で維持管理のしやすい執務空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。 環境負荷の少ない建材の使用や周辺への環境対策に努めている。 	<p>地域性・アメニティ向上のため、従業員が年に4回清掃活動に努めている。</p>
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>評価対象外である。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的なメンテナンスのしやすさを考慮した設計とした。</p>
<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>緑地を積極的に設けて、建築物の形態や色彩などに配慮するなど景観向上に努めている。</p>	
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>LED照明など高効率な照明設備を採用してエネルギー消費の削減を図っている。 建築外皮への熱負荷を抑制するため、断熱材を天井裏などに効果的に配した。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>実施設計段階では今後更に、有害物質を含まない建築材料、再利用可能な部材、リサイクル材などを積極的に採用する予定である。</p>
	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>地球温暖化対策や大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に取り組んでいる。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される